

令和4年度病害虫発生予察情報 発生予報第4号

令和4年7月20日
発表：福島県病害虫防除所

1 普通作物

作物名	病害虫名	地方	発生時期	発生量	予報の根拠	防除上注意すべき事項
水 稲	いもち病 (穂いもち)	全 域	平年並	やや多い	農業総合センターによる生育調査から、本年の出穂期は平年並と予測される。 7月上旬の巡回調査では、葉いもちの発生ほ場割合は平年より低いですが、中旬以降各地から発生情報が寄せられ、ズリコミ症状を呈するほ場も確認された(±)。 天候予報(仙台湾気象台7月14日発表)によると、向こう1か月の気温は高く、降水量はやや多いと予想されている(+)	山間・山沿いなどの常発地域や無防除ほ場など既に多発しているほ場及びその周辺では、確実に防除を行う(令和4年7月20日付け防除情報参照)。
	紋枯病	全 域	平年並	平年並	前年の発生ほ場割合は平年より低かった(-)。 天候予報によると、向こう1か月の気温は高く、降水量はやや多いと予想されている(+)	窒素肥料の多用を避ける。 水面施用剤は出穂前、散布剤は穂ばらみ期～穂揃期に施用する。 気温が高いと上位葉鞘への伸展が早いため、注意する。
	イネツトムシ	全 域	—	やや少ない	7月上旬の発生ほ場割合は平年より低かった(-)。	直播栽培や葉色の濃いほ場では被害が大きくなりやすいため、注意する。 6月上旬の低温で生育が遅れたほ場では、高温の影響で葉色が濃くなり、被害が大きくなる場合があるため、注意する。

(注) 予報の根拠の中で(+)は多発要因、(-)は少発要因、(±)は平年並要因であることを示す。

○注意が必要な病害虫

水 稲	<p>■稲こうじ病</p> <p>穂ばらみ期の多雨・低温によって発病が助長され、本年は天候状況などから多発するおそれがあります。銅を含む薬剤の使用は出穂 10 日前までとし、防除時期が遅れないよう実施してください。また、葉が濡れていると薬害が出やすいため、注意してください。</p>
	<p>■斑点米カメムシ類</p> <p>出穂期が、6月上旬の低温によりほ場間でばらつく可能性があるため、生育状況に応じて防除適期を逃さないように注意してください。1 回目の薬剤散布の適期は、優占するカメムシ類によって異なるため、注意してください。カスミカメ類が優占する場合は出穂7～10 日後、クモヘリカメムシが優占する場合は出穂直後から7 日後が散布適期です。いずれの場合も追加防除を行う際は1 回目散布から7 日おきを目安としてください。なお、畦畔及び水田内の除草を励行し、畦畔の除草は出穂 10 日前までには完了させてください。</p>

詳しい発生状況や防除対策は、福島県病害虫防除所ホームページ<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>をご覧ください。

お問い合わせはTEL:024-958-1709、FAX:024-958-1727またはe-mail:yosatsu@pref.fukushima.lg.jpへお願いします。

◆福島県では6月10日から9月10日まで令和4年度農薬危害防止運動を実施しています◆
農薬を使用する際は、ラベルをよく読んで正しく使用しましょう。